

ダイワDBモメンタム 戦略ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	約5年間（2017年8月23日～2022年8月19日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

運用報告書(全体版)

第6期

(決算日 2020年8月19日)

(作成対象期間 2020年2月20日～2020年8月19日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金への配分を変更しながら、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2721>
<2722>

為替ヘッジあり

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
2 期末 (2018年 8 月20日)	10,060	0	△ 3.4	—	98.2	32,422
3 期末 (2019年 2 月19日)	9,646	0	△ 4.1	—	98.1	26,690
4 期末 (2019年 8 月19日)	10,243	100	7.2	—	98.5	20,826
5 期末 (2020年 2 月19日)	10,433	0	1.9	—	95.6	17,207
6 期末 (2020年 8 月19日)	11,565	350	14.2	—	98.5	14,354

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

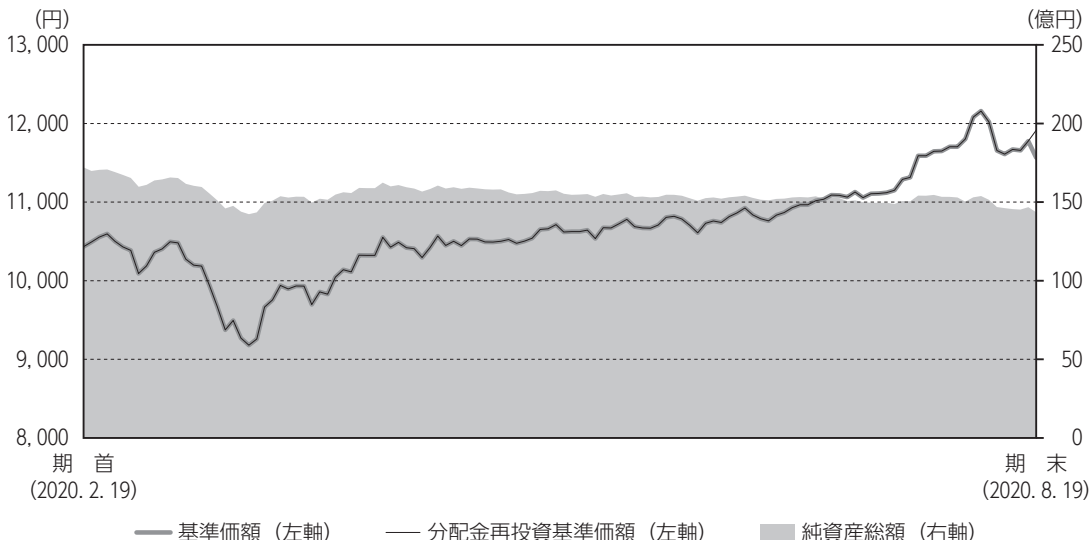
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,433円

期末：11,565円（分配金350円）

騰落率：14.2%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主にモメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）の上昇がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、金価格の上昇や米国長期金利の低下（債券価格の上昇）がプラスに寄与しました。米国株式の寄与は軽微でした。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）：オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2020年 2月19日	10,433	—	—	95.6
2月末	10,385	△ 0.5	—	99.1
3月末	9,933	△ 4.8	—	98.3
4月末	10,447	0.1	—	98.4
5月末	10,675	2.3	—	98.3
6月末	10,834	3.8	—	99.0
7月末	11,650	11.7	—	98.1
(期末)2020年 8月19日	11,915	14.2	—	98.5

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2020. 2. 20 ~ 2020. 8. 19）

■米国株式市況

米国株式市況はほぼ横ばいとなりました。

当作成期首から2020年3月にかけての米国株式市況は、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大したほか、OPEC（石油輸出国機構）と非OPEC主要産油国で構成する「OPECプラス」が減産強化の合意に至らなかったことで原油価格が急落し、景気後退が懸念されて大きく下落しました。その後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）が中小企業の資金繰り支援策を発表したほか、新型コロナウイルスのワクチン候補の臨床試験で有望な初期結果が示されたことなどを背景に景気への楽観が広がり、上昇に転じました。

■米国長期金利

米国長期債券市況は上昇しました。

当作成期首から2020年3月にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速への影響が意識され、米国長期金利が低下して長期債券市況は上昇しました。その後は、米国政府による新たな景気刺激策が発表されたことなどから、景気への悲観的な見方が徐々に弱まり、長期債券市況はおおむね横ばいで推移しました。

■金

金価格は上昇しました。

当作成期首から2020年3月にかけては、世界的な株安を受けて損失補てんの利益確定売りが出たほか、米ドル需要の高まりで米ドル高となり米ドル建ての金の割高感が強まったことで、金価格は下落しました。その後は、新型コロナウイルスの感染拡大や米中対立激化に伴う景気減速に対する懸念などを背景に、安全資産としての金の需要が増し、上昇しました。

■米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利0.25~1.75%（年率）近辺で推移し、米国短期債券市況は緩やかに上昇しました。

■短期金利市況

日本では、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続し、短期金利は低位で推移しました。一方、FRB（米国連邦準備制度理事会）は政策金利の誘導目標を合計1.50%ポイント引き下げ、0.00~0.25%としました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性及び資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2020. 2. 20 ~ 2020. 8. 19)

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2020年2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
米国株式	30.9%	30.2%	30.6%	30.7%	24.6%	17.9%
米国長期金利	13.6%	13.9%	13.7%	13.6%	16.2%	18.9%
金	55.5%	56.0%	55.7%	55.7%	59.2%	63.3%
米ドルキャッシュ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2020年2月20日 ～2020年8月19日	
当期分配金（税込み）	(円)	350
対基準価額比率	(%)	2.94
当期の収益	(円)	350
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	1,565

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 1,473.38
(c) 収益調整金	151.08
(d) 分配準備積立金	290.62
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	1,915.09
(f) 分配金	350.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	1,565.09

- (注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2020. 2. 20～2020. 8. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	63円	0.588%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,659円です。
（投 信 会 社）	(20)	(0.191)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(41)	(0.383)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	63	0.592	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

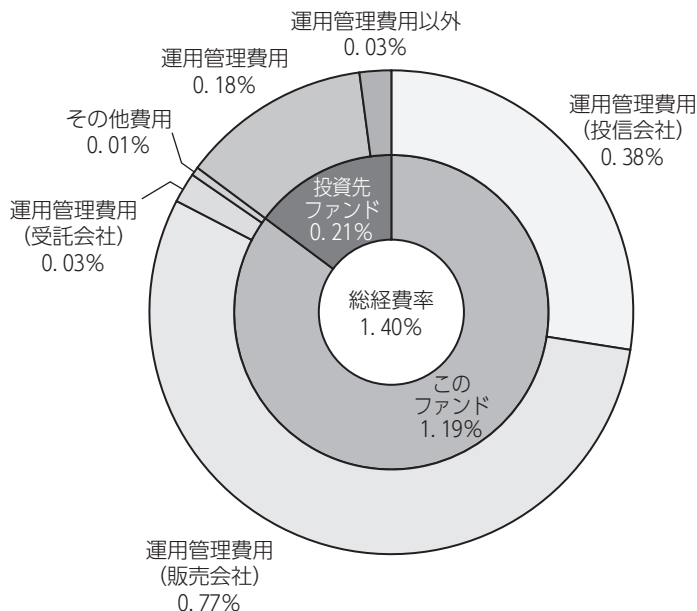
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.40%です。



総経費率（① + ② + ③）	1.40%
①このファンドの費用の比率	1.19%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.18%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

（2020年2月20日から2020年8月19日まで）

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 （邦貨建）	—	—	37,886.20912	4,406,000

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

（2020年2月20日から2020年8月19日まで）

当 期				期 末			
買 付		売 付		買 付		売 付	
銘 柄	□ 数	金 額	平均単価	銘 柄	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
				ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS（ケイマン諸島）	37,886.20912	4,406,000	116

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS	111,188.76225	14,145,434	98.5

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期	期 末
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	6,592	6,592	6,585

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年8月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	14,145,434	94.3
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	6,585	0.0
コール・ローン等、その他	854,539	5.7
投資信託財産総額	15,006,559	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年8月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	15,006,559,376円
コール・ローン等	854,539,548
投資信託受益証券（評価額）	14,145,434,333
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	6,585,495
(B) 負債	651,659,519
未払収益分配金	434,431,244
未払解約金	125,334,819
未払信託報酬	91,256,869
その他未払費用	636,587
(C) 純資産総額（A - B）	14,354,899,857
元本	12,412,321,284
次期繰越損益金	1,942,578,573
(D) 受益権総口数	12,412,321,284口
1万口当り基準価額（C / D）	11,565円

* 期首における元本額は16,492,844,718円、当作成期間中における追加設定元本額は289,755,640円、同解約元本額は4,370,279,074円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は11,565円です。

■損益の状況

当期 自 2020年2月20日 至 2020年8月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 66,540円
受取利息	12,607
支払利息	△ 79,147
(B) 有価証券売買損益	1,920,777,547
売買益	2,149,046,094
売買損	△ 228,268,547
(C) 信託報酬等	△ 91,897,582
(D) 当期損益金（A + B + C）	1,828,813,425
(E) 前期繰越損益金	360,659,361
(F) 追加信託差損益金	187,537,031
（配当等相当額）	（ 118,587,860）
（売買損益相当額）	（ 68,949,171）
(G) 合計（D + E + F）	2,377,009,817
(H) 収益分配金	△ 434,431,244
次期繰越損益金（G + H）	1,942,578,573
追加信託差損益金	187,537,031
（配当等相当額）	（ 118,587,860）
（売買損益相当額）	（ 68,949,171）
分配準備積立金	1,755,109,683
繰越損益金	△ 68,141

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	1,828,809,482
(c) 収益調整金	187,537,031
(d) 分配準備積立金	360,731,445
(e) 当期分配対象額（a + b + c + d）	2,377,077,958
(f) 分配金	434,431,244
(g) 翌期繰越分配対象額（e - f）	1,942,646,714
(h) 受益権総口数	12,412,321,284口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	350円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

為替ヘッジなし

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			公社債組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
2 期末 (2018年 8 月20日)	10,472	50	1.9	—	97.2	77,315
3 期末 (2019年 2 月19日)	10,179	0	△ 2.8	—	98.4	63,471
4 期末 (2019年 8 月19日)	10,578	100	4.9	—	98.8	46,378
5 期末 (2020年 2 月19日)	11,132	150	6.7	—	96.2	35,039
6 期末 (2020年 8 月19日)	11,938	300	9.9	—	98.7	28,502

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

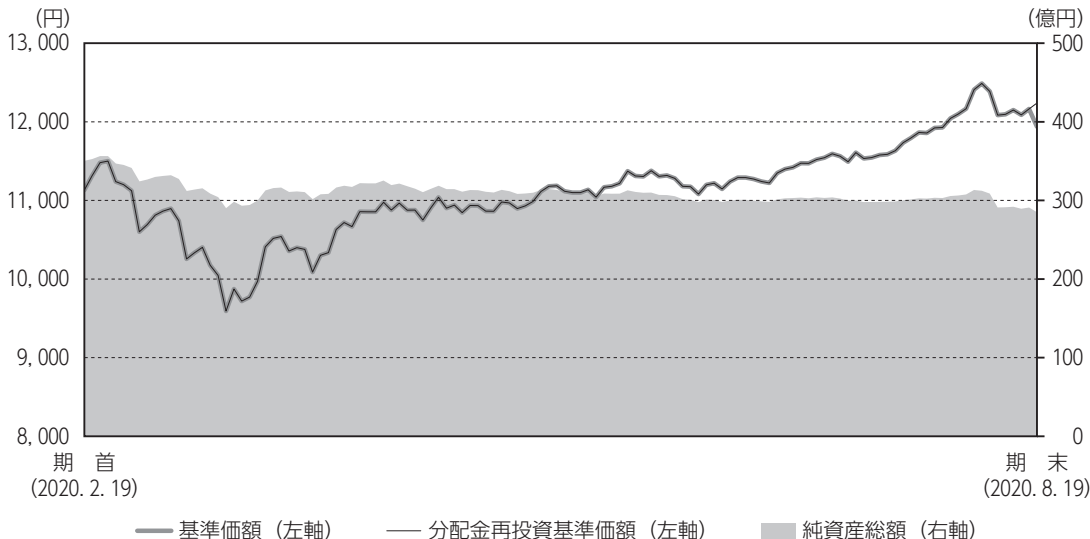
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：11,132円

期末：11,938円（分配金300円）

騰落率：9.9%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主にモメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）の上昇がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、米ドルが対円で下落（円高）したことがマイナス要因となりましたが、金価格の上昇や米国長期金利の低下（債券価格の上昇）がプラスに寄与しました。米国株式の寄与は軽微でした。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）：オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2020年 2月19日	11,132	—	—	96.2
2月末	11,123	△ 0.1	—	98.7
3月末	10,399	△ 6.6	—	98.5
4月末	10,845	△ 2.6	—	98.7
5月末	11,167	0.3	—	98.5
6月末	11,349	1.9	—	98.5
7月末	11,928	7.2	—	98.0
(期末)2020年 8月19日	12,238	9.9	—	98.7

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2020. 2. 20 ~ 2020. 8. 19）

■ 米国株式市況

米国株式市況はほぼ横ばいとなりました。

当作成期首から2020年3月にかけての米国株式市況は、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大したほか、OPEC（石油輸出国機構）と非OPEC主要産油国で構成する「OPECプラス」が減産強化の合意に至らなかったことで原油価格が急落し、景気後退が懸念されて大きく下落しました。その後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）が中小企業の資金繰り支援策を発表したほか、新型コロナウイルスのワクチン候補の臨床試験で有望な初期結果が示されたことなどを背景に景気への楽観が広がり、上昇に転じました。

■ 米国長期金利

米国長期債券市況は上昇しました。

当作成期首から2020年3月にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速への影響が意識され、米国長期金利が低下して長期債券市況は上昇しました。その後は、米国政府による新たな景気刺激策が発表されたことなどから、景気への悲観的な見方が徐々に弱まり、長期債券市況はおおむね横ばいで推移しました。

■ 金

金価格は上昇しました。

当作成期首から2020年3月にかけては、世界的な株安を受けて損失補てんの利益確定売りが出たほか、米ドル需要の高まりで米ドル高となり米ドル建ての金の割高感が強まったことで、金価格は下落しました。その後は、新型コロナウイルスの感染拡大や米中対立激化に伴う景気減速に対する懸念などを背景に、安全資産としての金の需要が増し、上昇しました。

■ 米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利0.25~1.75%（年率）近辺で推移し、米国短期債券市況は緩やかに上昇しました。

■ 米ドル / 円為替市況

米ドルは対円で下落しました。

当作成期首から2020年3月上旬にかけての米ドルの対円為替相場は、新型コロナウイルスの感染が拡大したことによるリスク回避の動きから円高が進行し、下落しました。その後、市場の混乱を受けて短期の米ドル資産に対する需要が高まり米ドルは反発しましたが、3月下旬に入ると、FRB（米国連邦準備制度理事会）による流動性供給策などを受けて再び下落しました。4月から7月中旬にかけては、比較的狭いレンジ内での推移となりましたが、当作成期末にかけては、新型コロナウイルスの感染再拡大や米中関係の悪化などが嫌気され、下落しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2020. 2. 20 ~ 2020. 8. 19）

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2020年2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末
米国株式	30.9%	30.2%	30.6%	30.7%	24.6%	17.9%
米国長期金利	13.6%	13.9%	13.7%	13.6%	16.2%	18.9%
金	55.5%	56.0%	55.7%	55.7%	59.2%	63.3%
米ドルキャッシュ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2020年2月20日 ～2020年8月19日	
当期分配金（税込み）	(円)	300
対基準価額比率	(%)	2.45
当期の収益	(円)	300
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	1,937

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 1,096.33
(c) 収益調整金	390.92
(d) 分配準備積立金	750.33
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	2,237.59
(f) 分配金	300.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	1,937.59

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2020. 2. 20～2020. 8. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	65円	0.588%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,130円です。
（投 信 会 社）	(21)	(0.191)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(43)	(0.383)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(2)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	66	0.591	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

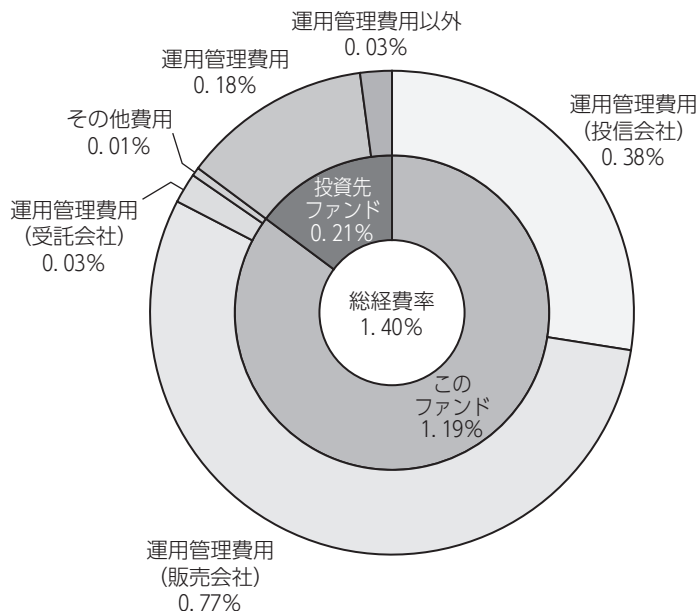
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.40%です。



総経費率（① + ② + ③）	1.40%
①このファンドの費用の比率	1.19%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.18%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2020年2月20日から2020年8月19日まで)

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 (邦貨建)	—	—	69,348.13804	8,532,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

(2020年2月20日から2020年8月19日まで)

当 期				期 末			
買 付		売 付		買 付		売 付	
銘 柄	□ 数	金 額	平均単価	銘 柄	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
				ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS (ケイマン諸島)	69,348.13804	8,532,000	123

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評 価 額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS	212,672.78997	28,136,397	98.7

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	10,288	10,288	10,277

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年8月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	28,136,397	95.1
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	10,277	0.0
コール・ローン等、その他	1,443,336	4.9
投資信託財産総額	29,590,011	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年8月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	29,590,011,287円
コール・ローン等	1,443,336,482
投資信託受益証券（評価額）	28,136,397,440
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	10,277,365
(B) 負債	1,087,031,901
未払収益分配金	716,303,024
未払解約金	186,929,672
未払信託報酬	182,721,533
その他未払費用	1,077,672
(C) 純資産総額（A－B）	28,502,979,386
元本	23,876,767,468
次期繰越損益金	4,626,211,918
(D) 受益権総口数	23,876,767,468口
1万口当り基準価額（C／D）	11,938円

* 期首における元本額は31,476,223,495円、当作成期間中における追加設定元本額は617,433,352円、同解約元本額は8,216,889,379円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は11,938円です。

■損益の状況

当期 自 2020年2月20日 至 2020年8月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 139,529円
受取利息	26,033
支払利息	△ 165,562
(B) 有価証券売買損益	2,801,634,655
売買益	3,155,878,138
売買損	△ 354,243,483
(C) 信託報酬等	△ 183,807,650
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	2,617,687,476
(E) 前期繰越損益金	1,791,426,714
(F) 追加信託差損益金	933,400,752
（配当等相当額）	（ 89,009,512）
（売買損益相当額）	（ 844,391,240）
(G) 合計（D＋E＋F）	5,342,514,942
(H) 収益分配金	△ 716,303,024
次期繰越損益金（G＋H）	4,626,211,918
追加信託差損益金	933,400,752
（配当等相当額）	（ 89,009,512）
（売買損益相当額）	（ 844,391,240）
分配準備積立金	3,692,953,212
繰越損益金	△ 142,046

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	2,617,687,694
(c) 収益調整金	933,400,752
(d) 分配準備積立金	1,791,568,542
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	5,342,656,988
(f) 分配金	716,303,024
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	4,626,353,964
(h) 受益権総口数	23,876,767,468口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	300円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド
日本円クラス／米ドル・クラス

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし）はケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド 日本円クラス／米ドル・クラス」に投資しておりますが、以下の内容は一部の項目を除きすべてのクラスを合算しております。

（注）2020年8月19日時点で入手しうる直近の状況を掲載しております。

（日本円建て）

貸借対照表
2019年12月31日

資産

投資資産の評価額（簿価 ¥49,876,021,827）	¥	53,611,687,189
現金および現金同等物		35,516,088
スワップ契約による評価益		116,921,829
資産合計		53,764,125,106

負債

未払：

終了済みスワップ契約		68,242,030
担保不足額		34,245,987
専門家報酬		23,846,007
管理会社報酬		11,527,393
運用会社報酬		4,979,135
名義書換代理人報酬		1,539,420
受託会社報酬		387,440
その他負債		47
負債合計		144,767,459

純資産

	¥	53,619,357,647
日本円クラス	¥	16,997,834,047
米ドル・クラス		36,621,523,600
	¥	53,619,357,647

発行済み受益証券口数

日本円クラス	160,302,998
米ドル・クラス	323,003,689

受益証券1口当り純資産額

日本円クラス	¥	106.036
米ドル・クラス	¥	113.378

損益計算書

2019年12月31日に終了した年度

投資収益		
受取利息	¥	3,252,886
投資収益合計		<u>3,252,886</u>
費用		
担保不足費用		179,039,281
運用会社報酬		78,183,067
管理会社報酬		45,998,124
専門家報酬		9,795,229
名義書換代理人報酬		7,850,175
受託会社報酬		1,573,954
その他費用		9,694
費用合計		<u>322,449,524</u>
投資純損失		<u>(319,196,638)</u>
実現益 / (損) および評価益 / (損) :		
実現 (損) の内訳 :		
証券投資		2,464,854,674
スワップ契約		(490,389,015)
外国為替取引および為替先渡契約		(31,834,493)
純実現利益		<u>1,942,631,166</u>
評価益の純変動の内訳 :		
証券投資		7,832,299,891
スワップ契約		13,903,740
外国為替換算		8,141,363
評価益の純変動		<u>7,854,344,994</u>
純実現利益および評価益の純変動		<u>9,796,976,160</u>
運用による純資産の純増	¥	<u>9,477,779,522</u>

ダイワDBモメンタム戦略ファンド

(日本円建て)

投資明細表
2019年12月31日

ストラクチャード商品

投資資産の明細	受益証券数	純資産に 占める割合		評価額
Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index* ー トータル・リターン・スワップ	430,931	99.99%	¥	53,611,687,189
ストラクチャード商品計 (簿価 ¥49,876,021,827)				53,611,687,189
投資資産計 (簿価 ¥49,876,021,827)		99.99%	¥	53,611,687,189

*当ファンドは Deutsche Bank A. G. , ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通して Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index と同様のエクスポージャーを有しています。

日本円クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益 (損)	純資産に 占める割合
J P Y	Deutsche Bank A. G.	16,883,218,349	2020/1/31	U S D	(154,415,208)	¥ 116,921,829	0.22%

用語集:

J P Y 日本円
U S D 米ドル

<補足情報>

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の決算日（2019年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2020年8月19日）現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの主要な売買銘柄

2020年2月20日～2020年8月19日における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2020年8月19日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

運用報告書 第8期 (決算日 2019年12月9日)

(作成対象期間 2018年12月11日～2019年12月9日)

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

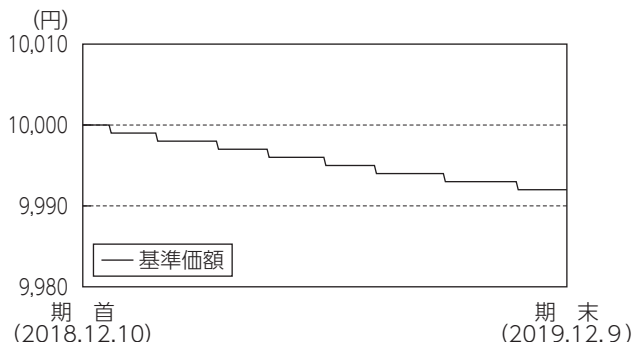
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2018年12月10日	円	%	%
	10,000	-	-
12月末	10,000	0.0	-
2019年1月1月末	9,999	△0.0	-
2月末	9,998	△0.0	-
3月末	9,997	△0.0	-
4月末	9,997	△0.0	-
5月末	9,996	△0.0	-
6月末	9,995	△0.1	-
7月末	9,994	△0.1	-
8月末	9,994	△0.1	-
9月末	9,993	△0.1	-
10月末	9,993	△0.1	-
11月末	9,992	△0.1	-
(期末)2019年12月9日	9,992	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,000円 期末：9,992円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

短期の国債やコール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	2 (2)
合 計	2

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
 (注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	国債証券	40,000	(40,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

		当 期	
		買 付	売 付
銘	柄	金 額	柄
801 国庫短期証券 2019/3/18		千円 40,000	千円

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	7,324,100	100.0
投資信託財産総額	7,324,100	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	7,324,100,953円
コール・ローン等	7,324,100,953
(B) 負債	44,082
その他未払費用	44,082
(C) 純資産総額(A - B)	7,324,056,871
元本	7,329,994,437
次期繰越損益金	△ 5,937,566
(D) 受益権総口数	7,329,994,437口
1万口当り基準価額(C / D)	9,992円

* 期首における元本額は9,018,625,641円、当作成期間中における追加設定元本額は4,065,530,242円、同解約元本額は5,754,161,446円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ債券コア戦略ファンド (為替ヘッジあり) 999円、ダイワ債券コア戦略ファンド (為替ヘッジなし) 999円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αフットロプレミアム (毎月分配型) 219,583円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αフットロプレミアム (年2回決算型) 24,953円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム (毎月分配型) 848,389円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム (年2回決算型) 66,873円、ダイワ米国株主還元株ファンド36,730,213円、ダイワD Bモメンタム戦略ファンド (為替ヘッジあり) 6,592,748円、ダイワD Bモメンタム戦略ファンド (為替ヘッジなし) 10,288,683円、ダイワ/パリュール・パートナーズ・チャイナ・イノベーター・ファンド10,000円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり (年1回決算型) 4,995円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし (年1回決算型) 4,995円、ダイワ・ブラジル・レアル債α (毎月分配型) -スーパー・ハイインカム- α50コース49,911円、ダイワ・ブラジル・レアル債α (毎月分配型) -スーパー・ハイインカム- α100コース49,911円、ダイワ・オーストラリア高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ118,909,472円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 6 - 1,052,878,511円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 7 - 1,327,444,782円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 4 - 858,767,992円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 5 - 3,405,863,412円、ダイワ円債セレクト・マネーコース504,712,528円、ダイワ・スイス高配当株ツインα (毎月分配型) 2,996,106円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) 為替ヘッジなしコース1,490,665円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) 日本円コース497,633円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) ブラジル・レアル・コース994,307円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) 通貨セレクト・コース397,742円、ダイワ世界インカム・ハンター (年2回決算型) 為替ヘッジあり40,885円、ダイワ世界インカム・ハンター (年2回決算型) 為替ヘッジなし100,789円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり (毎月分配型) 1,235円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし (毎月分配型) 1,598円、通貨選択型 ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 日本円コース (毎月分配型) 1,544円、通貨選択型ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 通貨セレクトコース (毎月分配型) 1,984円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,992円です。
* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は5,937,566円です。

■損益の状況

当期 自2018年12月11日 至2019年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△4,832,170円
受取利息	2,318
その他収益金	4
支払利息	△4,834,492
(B) その他費用	△1,752,564
(C) 当期損益金(A + B)	△6,584,734
(D) 前期繰越損益金	119,826
(E) 解約差損益金	2,559,971
(F) 追加信託差損益金	△2,032,629
(G) 合計(C + D + E + F)	△5,937,566
次期繰越損益金(G)	△5,937,566

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。